



活力あふれ、人が輝く「住んでよし、誇れる泉崎村」

あけましておめでとうございます。

村民の皆様におかれましては、新年を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃から村政全般に渡り、温かいご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は北陸地方で1月1日の午後4時10分にマグニチュード7.6の地震が発生し、石川県輪島市で震度7が観測され、能登半島を中心に、地震による土砂災害や沿岸部の津波被害等による甚大な被害が発生する年明けとなりました。さらに能登地方においては9月の大雨による被害も発生し、二重被災となり、未だに避難生活を余儀なくされている状況にあり、被災された方々の一日も早い復興を祈念し、併せて心からの御見舞いを申し上げます。

き、地元野菜を使った豚汁などが振舞われ、会場は笑顔に包まれました。また、敬老会については、敬老者を招待しての通常開催とし、米寿、金婚、しあわせ金婚の皆様をお祝いたしました。秋には、「収

りました。また、毎年様々なドラマを生む「市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会」は、今回で36回を迎え、村の部準優勝、総合で16位の成績を収めました。「最善を尽くす精神」は若い世代に受



箭内憲勝 村長

Norikatsu Yannai

穫感謝祭」が開催されました。好天に恵まれ、約1,300人の参加をいただき、ステージイベントで大いに盛り上がり、出店ブースでは新鮮野菜や果物等を買求める行列ができるなど、大いに賑わう一日とな

け継がれ、信念を貫く選手姿は、村民に勇気と感動を与えました。こうした頑張り、これからの村づくりの原動力になるものと確信しております。今後も様々な分野での活躍が、地域の一体感や活力を醸成

し、さらに発展・進化することを願うところであります。

現在村は、昨年度策定しました「第6次泉崎村総合振興計画」に基づき、活力あふれ、人が輝く「住んでよし 誇れる村づくり」の実現に向けた取り組みを行っています。公約に掲げました村の玄関口となる泉崎駅周辺整備や児童・生徒の食の安心安全を確保するための、学校給食センターの建替えにも取り組んでいるところであります。

また、人口減少・少子高齢化対策は、最重要課題であることから経済支援対策はもとより、雇用対策、住宅対策、教育対策に加え、医療福祉対策などに、積極的に取り組んでまいります。

さらに、日本各地に相次いで自然災害が発生するなど、深刻な被害も受けており、決して楽観できる状況にありません。加えて、将来地球温暖化による異常気象の影響が必ずあると考え、備えなければなりません。国と地方は総力をあげて、国土強靱化、地方創生

推進に取り組んでいく必要があります。村は、長期的視野に立ち、持続可能な行財政運営を図りながら、職員一丸となり、村民が笑顔となる「住んでよし、誇れる泉崎村」づくりを目指して邁進してまいります。

さて、今年の干支は「乙巳（きのとみ）」です。「巳」は蛇を表し、古来より豊穡や金運を司る神様として祀られることもあり、神聖な生き物として認識されてきました。また、巳年は成長と結実の時期となる可能性の高い年と言われます。「乙」は未だ発展途上の状態を表し、「巳」は植物が最大限まで成長した状態を意味します。これは、これまでの努力や準備が実を結び始める時期を示唆するものとされています。

今後におきましても巳の如く、知恵と洞察力を発揮し、辛抱強く、粘り強く業務に取り組んでまいります。結びに、村民の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

新年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、令和7年の輝かしい新春をご家族とともに迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃から議会への深いご理解と議会活動に対するご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年の泉崎村議会では、一年目の議員が半数と多く、手探り状態の中、各々が選ばれて議員になったからには住み続けたい村、そして、今まで描いてきたよい良い村づくりを実現するべく一生懸命に活動してまいりました。また、多様化する住民のニーズに応えるべく様々な課題に向き合う姿勢で過ごしてまいりました。全議員が職責の重さを認識して、初心を忘れず村づくりに取り組んでおります。

昨年はロシアのウクライナ進攻が長期化し、イスラエルとイスラム組織ハマスの武力衝突と国際情勢が混乱を深める中、日本の政治

情勢においては石破内閣が発足し、国内政治が大きく動き出しました。世界においても米国大統領選挙をはじめ世界各国で選挙が行われ、時代の変化に直面した年でありました。また、元

た啓蒙活動と防災を真剣に考えなければならぬと感じました。自然災害は未然に防ぐことは不可能ですが、被害を最小限に抑えることは可能です。そのために日頃から



岡部英夫 議会議長

Hideo Okabe

日に起きた能登半島沖地震や、日向灘沖地震、線状降水帯による豪雨の多発など自然災害に翻弄された年でありました。災害はいつ、どこで起きてもおかしくないものであり、年間を通じ

危機感を持つて生活し、災害に対する認識を持ち続けることが重要であると思います。混乱し続ける時代の中、本村においても少子高齢化、教育、産業振興等、諸

課題が山積しております。人口減少を食い止め、人口増につながる政策提言、教育の充実、産業振興の発展等、諸問題解決に向け、執行部と議会が丸となって取り組んでいかなければなりません。今後、村は泉崎駅周辺整備事業・給食センター・建替え事業・病院の建替え等、大型のプロジェクトも控えております。

今年は「巳」年です。十千十二支では、「乙巳（きのとみ）」となります。「巳」は「成長」と「変化の時期」を象徴し、「乙」は「柔軟さ」と「適応力」を表すとされています。物事が大きく転換、成長し始め、次へ進み始める力を持つ年といわれております。

泉崎村が大きなプロジェクトへ向けて進展していく姿を期待するとともに、議会では実現へ向けて長期的な視野で行政を監視する機関として役割を果たす責任は重要であり、村民の皆様は希望へ寄り添ってまいりたいと考えております。

議会においても議会改革

に努めており、議員間で意見を出し合い議会運営について議論を重ねて前へ進んでおります。また、議論の幅を広げて各々の活動が充実していくことで議会での政策提言にいききていくと実感しております。泉崎村の議会は、多種多様な層の住民から選出された議員であり、女性の視点や若い視点など多様な視点から幅広い意見・提案が増えてきております。

地域に目を向け、村民の皆様のお見込みが効果的に行政に反映されるためにも、村執行部と共に議論をし、村民の皆様が安全で安心して暮らせる村づくりのために、より一層の議会改革に努めてまいりますので、今後ともご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに村民の皆様方にとって、本年も実り多き素晴らしい年になりますように心よりご祈念いたします。年頭の挨拶といたします。

豊かな教育の実現のために

あけましておめでとうございます。令和7年が皆様にとって、素晴らしい1年となりますことを心よりご祈念申し上げます。

令和6年、村民の皆様には、教育行政に対してご理解とご協力をいただきまして心より御礼を申し上げます。引き続き令和7年もご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

教育委員会では、「村民の皆様と手づくりの教育」を基本理念として、多くの取り組みを行ってきました。本村の自然や地域の特徴、代々受け継がれてきた伝統を基にして、最大限に効果が出る取り組みを行っています。

将来の社会に生きる子どもたちと私たちは、どのような力を備えたらよいのか、次の視点が大切と考えています。

自ら学ぶ

学校現場では、数年間にわたる「コロナ禍」における制限ある生活をひとまず抜け出したと言われています。この間に伝統や慣例という言葉に基づいて継続してきたことを、統合、精選し、廃止しました。私たちは、社会がさまざま

じい勢いに変化する様子を目の当たりにしています。いわゆるSociety 5.0時代を迎え、急激に変化する時代の中に生きていくこととなります。

この数年間で一挙にIT化が進んできました。教室後、私たちに求められるものは、自ら学ぶ姿です。そして、様々な課題を見極め、解決していく姿です。現在の整えられた環境を活用することができ、自分の思いや考えをしつかりと相手に伝える力が、これからの社



鈴木一正 教育長

Kazumasa Suzuki

でもIT機器をスムーズに活用しながら個々の学びに応じた学習ができる環境になってきました。教室や教室以外の場所で、簡単に他者とながら、調べたいことを得ることができます。今

会では必要となってきました。社会とつながり
本村の小中学校では、コミュニティスクール、地域学校協働本部事業を進めています。
全国的に人口減少、児童

数の減少が危惧されています。現実、本村でも段階的にですが、減少することが見込まれています。人と人との交流とふれあいの機会が少なくなるのではと心配もされています。他者と全く交流できないかというところではなく、様々な年齢の子どもや大人が交流できる場は、工夫次第で設けることができるようです。

本村の取り組みは、非常に重要な意義を持っています。地域の皆さんに参加いただき、子どもたちの活動をサポートしてくださっていることです。

ご家庭の皆さん、地域の皆さんといっしょに取り組み、子どもと大人、子どもと子どものつながる社会「地域で子どもを育む」「地域の方がつながる」環境がより一層充実できるようにご協力をお願いいたします。

SNS利用に関して、もちろん素晴らしい効果があることは理解していますが、扱い方によっては、様々な問題につながることも認識し、大人が子どもたちを守る環境を築かなければなりません。

未来を切り拓く
生涯学習環境の整備とし

ての中央公民館、資料館、図書館、さつき運動公園の役割は大きくなってきています。ここ数年、施設の利用拡大と共に長期的な利用環境の整備のため計画的な長寿命化により修繕改修を行っています。

このような生涯学習社会にあつて、今後、どのような施設運営と環境整備を進めるのか議論が必要です。長期的な振興計画の策定に取り組み予定です。「やりたいことを見つめる」「いっしょにやれる仲間を集める」「互いに連携と協力して組織を運営する」文字通り「主体的に生きる」ということにつながります。人生を豊かに楽しく充実して過ごすために動き出しましょう。

結びに、教育委員会では、令和7年度から運用となる第三期教育振興計画を策定しているところです。めざす人づくりとして「自ら学び 社会とつながり 未来を切り拓く人」としています。本年も各分野での施策を推進してまいりますので、皆様のご協力を賜りますようお願いしまして、新年のごあいさつといたします。